

■（一社）日本エレベーター協会や各施設事業者の取り組み

（エスカレーター「みんなで手すりにつかまろう」キャンペーンの実施について）

エレベーター協会や施設事業者が中心となり、エスカレーター利用者に対してエスカレーターの安全な利用を呼び掛ける「みんなで手すりにつかまろう」キャンペーンという啓発活動が毎年実施されている（平成 28 年は 7 月 19 日～8 月 31 日に実施）。



〈平成 28 年エスカレーター「みんなで手すりにつかまろう」キャンペーン〉

- 1 キャンペーン期間：2016年7月19日（火）～8月31日（水）
- 2 実施事業者：全国鉄道事業者51社局、商業施設、森ビル、羽田空港、成田空港、（一社）、日本民営鉄道協会、（一社）日本地下鉄協会、（一社）日本エレベーター協会、川崎市、千葉市
- 3 後援：国土交通省、消費者庁
- 4 キャンペーン内容：ポスターの掲出、ディスプレイ広告の掲載、ポケットティッシュ配布等

当キャンペーンは、平成 21 年から実施されており、当初は J R 東日本が単独でおこなってきたが、全国の鉄道事業者等とともにキャンペーン化したのは平成 25 年度から（全国展開として今回は 4 回目）。

※国土交通省としても、このキャンペーンに協力することにより、エスカレーターの利用時の安全向上に努めている。

※参考 URL：http://www.n-elekyo.or.jp/docs/20160712_EscalatorCampaign.pdf

■国内の製造事業者の取り組み（三菱電機ビルテクノサービス）

エレベーター・エスカレーターの安全な利用の促進を目的とした「三菱エレベーター・エスカレーター安全キャンペーン※」を1980年より全国各地で開催している。

※子供や高齢者・障害者の方々などを対象とした「利用者説明会」や、マンションやビルのオーナー・管理者の方々へ日常の管理方法や災害時の対応をご説明する「管理者説明会」等を実施。



毎日乗るから、安全に利用してほしい。

HPにおいても、キャンペーンで使用している子ども向けの紙芝居やクイズを掲載し、正しい利用方法等を解説した子ども向けリーフレット等も公開している。



▶ 紙しばいを見る!

〈紙芝居〉

実際に安全キャンペーンで使用しているものを映像化したもの。



▶ クイズにちょうせん!

〈クイズ〉

正しい乗り方に関するクイズ。5問正解するとPCで使えるメモ帳のプレゼント有り。



〈リーフレット〉

正しい利用方法やマナーを解説した子ども向けリーフレット

※参考 URL : http://www.meltec.co.jp/corp_inf/anzen/index.html

■国内の行政庁の取り組み事例（千葉市）

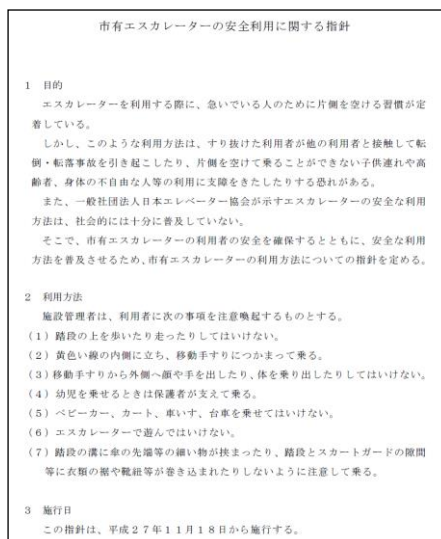
エスカレーター利用者の安全を確保するとともに、安全な利用方法を普及させるために、エスカレーターの安全利用に関する取り組みを行っている。

【市有エスカレーターの安全利用に関する指針を策定】

市有エスカレーターの安全利用に関する指針を策定し、周知活動を行っている。

【市有エスカレーターへのPRシートの貼付け】

市有エスカレーター63台を対象に、エスカレーターの安全な利用方法を図示したPRシートをエスカレーターの乗口の床に貼付して利用者へ注意を促している。



〈PRシート〉

〈市有エスカレーターの安全利用に関する指針〉



〈貼付イメージ〉

【「みんなで手すりにつかまろう」キャンペーンへの参加】

市が所有するエスカレーター周辺にキャンペーンポスターを掲出し、朝の通勤時間帯に啓発用ポケットティッシュの配布や各区役所に啓発用ポケットティッシュを配架する等の活動を行っている。

【民間のエスカレーター所有者への呼びかけ】

市内の民間が所有するエスカレーターについて、定期検査報告時や昇降機等定期検査報告実務者講習会を通じて、所有者に対し指針の理解とエスカレーターの安全利用に関しての協力を呼びかけている。

参考 URL : <https://www.city.chiba.jp/toshi/kenchiku/kanri/eshokoukinshi.html>

■海外の取り組み事例

海外の事例①：ニューヨーク市

子どもに向けたエレベーター・エスカレーターへの安全利用に係るマナー周知・啓発の取り組み

- アメリカ合衆国・ニューヨーク市建築部では、エレベーター及びエスカレーターの事故予防策として、市の職員が学校を訪問し、子どもたちにエレベーター及びエスカレーターの安全な利用方法に係るマナー周知・啓発を行う教育プログラム“the Safe-T Rider Program”に取り組んでいる。
- この子ども向け教育プログラムは、昇降機の業界団体により設立された非営利団体「エレベーター・エスカレーター安全財団（EESF）※」が開発しているプログラムで、ニューヨーク市では、EESF から提供される教育素材を活用して、ポスターなどを作成している。安全週間の際には、ニューヨーク市建築部昇降機課に所属する検査員が小学校を訪れ、エレベーターに乗っている際に非常停止した場合、どのように行動すべきかなどについて子どもたちに説明した。
- 多国籍の市民を抱えるニューヨーク市では、いたずらによる故障や正しい使い方がなされないことによる事故が多いことから、こうしたマナー教育に力を入れている。子どもにも分かりやすいパンフレットを学校で配布することで、パンフレットを持ち帰った家庭内でマナーに関する話題を共有することとなり、子どもを含む多くの市民に対してのマナー周知・啓発に繋がると考えている。
- EESF では、子どもたちに興味を持ってもらうようマスコットをつくっており、マスコットが登場し、マナーを説明する動画やポスター、ステッカー、ぬり絵やゲームなどをしながらマナーを学べる教材など、様々なグッズをHP上に掲載し、素材の提供を行っている。
- EESF では、ボランティア等の協力を得ながら、これまでに約600万人を超える子どもたちやその両親を対象に当プログラムを実施してきた。

■ニューヨーク市による取り組み



ニューヨーク市が実施した小学校でのマナー教育の様子。着ぐるみを着たキャラクターが安全利用マナーについて説明している。



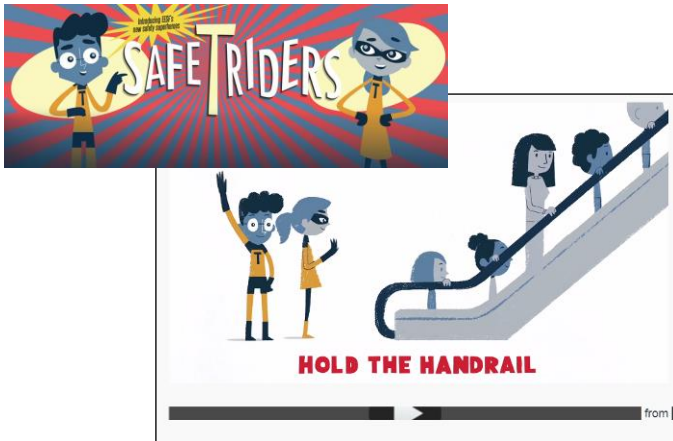
ニューヨーク市が配布しているチラシ。右のチラシでは、エレベーターに閉じ込められた際には、1. アラームを鳴らす、2. リラックスする、3. 待つ（ドアを開けて外に出ない）よう呼びかけている。

*EESF による子ども向け教育プログラム“the Safe-T Rider Program”の詳細については、下記サイトに掲載されている。

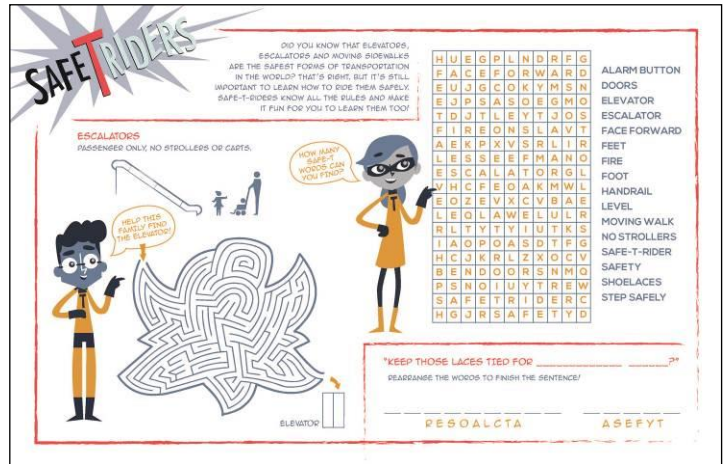
<http://www.eesf.org/safety/safetyeducation/safe-t-rider-elementary-classroom-program/>

http://www.nyc.gov/html/dob/html/news/pr_10th_elevator_safety_week.shtml（ニューヨーク市での取り組み）

■EESF が提供している教育プログラム素材



キャラクターを使って安全な利用方法を呼びかける動画



ゲームをしながら安全マナーを学ぶ教材。エスカレーターに乗る際には、靴ひもにも気を付ける、カートに乗せない、などの注意書きが書かれている。

大人向け教育プログラムとしてHP上で提供されている、エスカレーターの利用方法に関するポスター素材。

〈参考〉



※エレベーター・エスカレーター安全財団 (Elevator Escalator Safety Foundation : EESF) について

○EESF は、昇降機等の業界団体によって設立された非営利団体。1991年10月にアメリカ合衆国の非営利団体の認定を受けた。現在、アメリカ合衆国、及びカナダの慈善団体に登録されており、その他、カナダのエレベーター・エスカレーター安全財団、イギリスとアルゼンチンの安全機構と提携している。

○主な取り組みとして、子ども向け教育プログラム “ the Safe-T Rider Program” のプログラム開発の他、大人・シニア向け教育プログラム、大学生向け教育プログラム、国家安全週間イベントによる安全啓発プロモーションなどに取り組んでおり、昇降機の安全使用に関するガイドブックやポスターなどを作成し、無料でHP上に掲載し、素材の提供を行っている。

海外の事例②：ロンドン交通局 エスカレーターの歩行禁止の実験的取り組み

○ロンドン市内を走る地下鉄の運営・管理を行っているロンドン交通局では、地下鉄駅のひとつ、ホルボーン駅において、駅構内から地上へ続くエスカレーターにおける歩行禁止（片側を歩行用に空けずに両側に立って乗る）の取り組みをパイロット的に実施。トライアルは、2015年11月23日から12月11日にかけての3週間に渡って行われた。

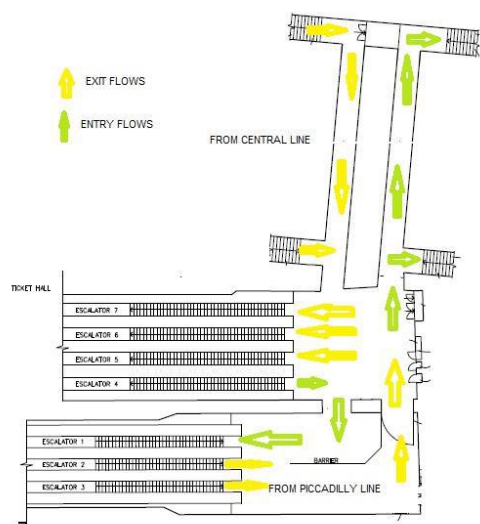
○このトライアルは、①安全性の確保、②混雑解消の効果の検証、③人々の行動パターンを変えることへの挑戦の三つの観点から行った。実施にあたっては、技術部で事前にシミュレーションを行った。人々の行動パターンに対して実際にどれほどの効果があるかを検証し、輸送能力を30%増加させることを目標に計算式を算出し、エスカレーターの速度設定などのいくつかのパラメーターの検証を行った。また、事前にリスクアセスメントも行い、ゲートが対応できるか、つまずきや転倒が起きないかなど総合的な評価を行った。その上で、両側に立つ方が安全であり、エスカレーターのスペースを有効的に活用できるとの見込みからから、このトライアルを実施することとなった。

○事前に特に広報等は行わず、実施当日、係員がエスカレーター付近に立ち、歩行せず両側に立つよう、乗客に呼びかけた。これが SNS 等で広がり話題となり、マスコミや新聞等に取り上げられた。市民の声は賛否両論様々だった。

○このパイロット調査によって、片側を空けるより両側に立って乗る方が、事前検証のとおり、輸送能力が30%増大することが実証され、さらに安全に利用できることが分かった。

○ただ、片側を空けて乗ることは習慣化されており、今後の課題として、人々の行動様式をどのように変えていくかについて引き続き安全戦略を立て検討中。

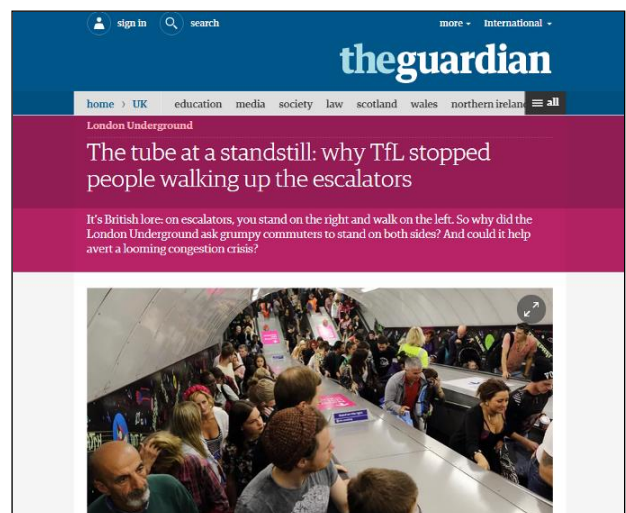
○なお、このトライアルはパート1であり、今後、パート2と続いていく予定。また、ホルボーン駅だけでなく、他の駅でも様々な安全戦略の取り組みを行っている。



ホルボーン駅の構内図。エスカレーターが計7基ある。



以前から右側に立つことを促す案内が設置されており、習慣化している。



マスコミによる当取り組みに関する報道記事



ホルボーン駅のエスカレーター。

海外の事例③：韓国

韓国昇降機安全管理院による子どもを対象とした昇降機利用の早期安全教育の取り組み

○韓国昇降機安全管理院^{*1}は、毎年増加している昇降機事故を減らすためには、子どもを対象とした早期教育が何よりも重要であるとの考えから、子どものための多様な教育プログラムを介して昇降機利用上の安全意識を高める取り組みを行っている。

※1：1992年に設立された、昇降機の検査や事故調査、教育活動等を行う公的機関。2016年7月1日より、韓国昇降機安全管理院と韓国昇降機安全技術院が統合され、新たに「韓国昇降機安全公団」が発足する予定。

【子どもエレベーター安全体験館での安全教育の実施】

○ソウルにある「韓国子供の安全教育館^{*2}」に「子どもエレベーター安全体験館」を設置し、早期安全教育を実施している。

※2：「韓国子供の安全教育館」は、韓国子供の安全財団が運営する施設。

韓国子供の安全財団は、子どもの安全保護を目的として、交通安全や食生活安全、災害時対応等に係る安全教育文化事業や研究開発事業を行うNGO。2000年設立。

○15人程度が同時に搭乗することができる体験用エレベーターが設置されており、搭乗体験を通して、エレベーターの正しい利用方法や安全上の注意、故障時や事故発生時の対処方法などを学ぶことができる。韓国子供の安全財団所属の専門講師が、エレベーターの安全利用の基礎的なマナーや安全規則を説明する。

○エレベーター安全体験館は、韓国昇降機安全管理院が韓国子供の安全財団に寄贈し、2007年12月にオープン。月平均約4千人の子どもたちに利用されている。

※出典：子供の安全教育館HP (<http://www.isafeschool.com/>)



エレベーター安全体験館におけるエレベーター体験学習の様子（子供の安全教育館HPより）



韓国子供の安全教育館フロアマップ（子供の安全教育館HPより）

【博覧会等における安全体験コーナーの運営】

○子どもたちの安全と健康の推進を目的に開催されている「子どもの安全健康博覧会^{※3}」において、韓国昇降機安全管理院及び韓国昇降機安全技術院が運営する、安全体験コーナーを設置している。

※3：博覧会は、国民日報、クッキーニュース主催。国民安全処など中央行政機関や開催市等がスポンサーとなり、毎年開催されている。

○安全体験コーナーでは、エレベーター及びエスカレーターの正しい利用方法や安全上の注意、故障時や事故発生時の対処方法などを学ぶことができる。

○2016年5月には第6回目となる博覧会が開催され、100社350の展示ブースが設置され、約42,000人の観覧客が訪れた。

※出典：子どもの安全健康博覧会HP (<http://www.healthykids.co.kr/>)



子供の安全体験博覧会におけるエスカレーターの安全体験の様子

(<http://kidshyundai.tistory.com/202>)

【訪問子どもエレベーター安全体験教室の開催】

○韓国昇降機安全管理院は、2015年、訪問による安全体験教室「訪問子どもエレベーター安全体験教室」を開催。

○この訪問教室は、昇降機安全管理院が自治体とともに、未就学児や小学生と同伴の保護者を対象に開催する教室で、エレベーター及びエスカレーターの正しい利用方法やエレベーター停電時の閉じ込め事故の対処方法等を学ぶもの。

○ビデオなどの視聴覚教材や、体験型設備を設けることで、子どもたちが興味を持ちながら学ぶことができるよう工夫している。

○当事業は国民安全処の委託事業として実施され、2015年4月から11月まで全国を巡回し、計29回、61日間に渡って開催された。

※出典：下記ニュースサイトより

(http://www.liftfocus.com/technote/read.cgi?board=biz_news_company&y_number=2077)



2015年に開催された訪問子どもエレベーター安全体験教室の様子

(http://www.liftfocus.com/technote/read.cgi?board=biz_news_company&y_number=2077)